

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・問題の読み取りを丁寧に行い、具体物操作や簡単な図・線分図・数直線にかくことを習熟に合わせて取り組む中で、自ら課題解決に取り組もうとする児童が増えてきた。
- ・自分なりの考えを发表或し、友達の考えを聞いたり互いの考えを伝え合う学びを通し、自分自身に自信を付け、また、いろいろな考え方が面白さを感じている姿も見られるようになってきた。
- ・習熟度別学習の実施や各学年の指導の工夫により、全体的に校内平均値が上がってきている。

(2) 課題

- ・算数に関して苦手意識をもつ児童の中に、整数の基本的な計算が身に付いていない児童がいる。特に、かけ算九九を習得していないために、新しい学習も自力解決や習得が困難で、学習意欲の持続が難しいこともあった
- ・学年が上がるごとに基礎・基本の定着の個人差が見受けられる。既習事項を生かし、新しい学習にも柔軟に活用する力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回っている。基礎はほぼ同程度である。観点別正答率でも全ての項目で目標値を上回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回っている。基礎はほぼ同程度である。観点別正答率でも全ての項目で目標値をやや下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回っている。観点別正答率でも全ての項目で目標値を上回っている。
第5学年	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率では、全ての項目で目標値をやや下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回っている。観点別正答率では、知識・技能、思考・判断・表現は目標値を上回っているが、主体的に学習に取り組む態度では目標値をやや下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回っている。観点別正答率では、知識・技能、思考・判断・表現は目標値を上回っているが、主体的に学習に取り組む態度では目標値と同程度である。
第6学年	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回っている。観点別正答率でも、全項目で目標値を上回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回っている。観点別正答率では、知識・技能は上回っているが、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度では、やや下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値と同程度である。観点別正答率でもすべての項目で目標値と同程度である。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は目標値より上回っている。大きい数や小数の計算には課題がある。	校内平均正答率は目標値より上回っている。長さやかさの単位の変換の問題には課題がある。文章題では、問題の内容を把握できないために立式できない。	校内平均正答率は、目標値よりも上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は5年が目標値を下回っているが、6年は上回っている。5年では、 $()$ や四則の混じった計算の問題で誤答が多かった。6年小数や分数の計算での誤答が多く見られた。	校内平均正答率は5年が目標値よりやや下回っているが、6年は目標値を上回っている。5年ではグラフを基に考察する問題やひし形の作図で誤答が多かった。6年では単位量当たりの大きさを割合を求め考察する問題で誤答が多かった。	校内平均正答率は5年が目標値を下回っているが、6年は上回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・繰り上がり、繰り下がりのある計算では、答えを出すだけでなく、計算の手順(思考の過程)の理解も深める。わけわけさくらんぼ』など、児童に親しみやすい言葉を用いたり、計算の手順を口頭で言う活動・書く活動を取り入れたりする。・長さや水のかさでは、単位量(1cm・1m・1ml・1Lなど)を実感させるために、測定の活動を取り入れる。活動はできるだけ個人、または少人数で取り組み、一人ひとりが実際に測定活動の経験を積めるように配慮する。また、既習事項を何度も声に出して話すことで理解の定着を図る。・時刻や時間については、定着を図るために、日常の中で機会あるごとに取り上げ、慣れ親しむようにする。・授業開始時の3分間、朝学習、土曜補習教室を活用し、	<ul style="list-style-type: none">・文章問題では、『わかってること』『聞かれていること』に着目し、題意を捉えられるようにする。・課題解決の見通しを立てたり、筋道を立てて考えたりするために具体物や半具体物を実際に操作することを積極的に取り入れていく。・見通しをもとに課題解決をする場面では、一人ひとりがじっくり課題に取り組めるよう時間を確保する。・自分の考えに自信をもったり、他の友達の考えを知ったりするために、ペア学習を取り入れていく。・○や□、△などを用いた簡単な図やアレイ図、テープ図など段階を踏みながら描く経験を計画的に取り入れていく。	<ul style="list-style-type: none">・新しい学習にも既習事項をもとに考えられるよう、必要な教具・掲示物を計画的に用意し、提示する。・その時間のめあての達成のためにも、課題を十分吟味し、(数値・内容など)提示する。・ICTを活用し、視覚的に分かりやすい授業を展開する。

継続して計算技能の向上や知識の定着に取り組む。		
-------------------------	--	--

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・計算の手順については、ノートにまとめるだけでなく、繰り返し口頭で言いながら実際に計算をすることで、手順の徹底を図る。 ・整数の計算能力を身に付けられるように、学年をまたいで継続して指導する。特に、わり算の筆算の問題を朝学習や補習教室等で取り組むことで定着を図る。 ・重さの学習では、単位量を身近なもの（例：1 km→学校から蒲田駅までの道のり 1 g→1 円玉の重さ 1 kg→牛乳パックの重さ）と結び付けてとらえさせることで、量感を養う。 ・面積の単位の換算は1 m²の広さを基に、できるだけ実生活の場面を用いて単位の関係を調べたり、まとめたりして量感を養う。 ・定規、分度器、コンパスを正しく使って、正確に作図できるように手順及び作図におけるポイントを押さえながら指導する。また、習熟に向け作図にかける時間の確保をする。 ・知識・技能の確実な定着を目指し、学習の習熟に合わせ、意図的・計画的に短時間でできるミニテストを実施する。 ・朝学習、補習教室、土曜補習教室を活用し、継続して計算技能の向上や知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は少人数学習の各コースの習熟に合わせて学習を行うことができないため、課題提示の仕方を工夫し、児童一人ひとりが問題解決に取り組めるようにする。 ・文章問題では、『わかって』『聞かれていること』『答えの単位』に着目し、題意を捉え計算の意味を理解して取り組めるようにする。 ・筋道をたてて考える手立てとして簡単な図や線分図や数直線（比例数直線）を自分でかけるようになることを目指し、実際にかく機会を計画的に設けると共に、それらを用いて考えることができるようにすることを、段階を追いながら丁寧に指導する。 ・自分の考えがもてるよう、見通しをもたせたり、自力解決のための時間を確保したりする。 ・自分の考えをもとに、互いの考えを出し合って学び合う機会を設定する。 ・180度より大きい角度の測り方やかき方を繰り返し指導し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習にも既習事項をもとに考えられるよう、必要な教具・掲示物を計画的に用意し、提示する。整数・小数・分数の計算は系統的に分かる掲示を工夫する。 ・日常場面に関連付けたり、具体物を使ったりして数量や図形についての意味を理解する活動を行い、学ぶ意欲を高める。 ・ICTを活用し、視覚に訴えるような活動を取り入れる。 ・机間指導を充実させ、一人ひとりの意欲を引き出していく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・高学年では抽象的な概念が増えるので、立式をしたら、それが何を表しているのかを児童に問うなどして、確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は少人数学習の各コースの習熟に合わせて学習を行うことができないため、課題提示の仕方を工夫し、児 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習にも既習事項をもとに考えられるよう、必要な教具・掲示物を計画的に用意し、提示する。

<p>をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の手順については、ノートにまとめるだけでなく、繰り返し口頭で言いながら実際に計算をすることで、手順の徹底を図る。 ・面積や体積などの単位の換算は1 m^2や1 m^3などを基に、できるだけ実生活の場面を用いて単位の関係を調べたり、まとめたりして量感を養う。 ・知識・技能の確実な定着を目指し、学習の習熟に合わせ、意図的・計画的に短時間でできるミニテストを実施する。 ・朝学習、補習教室、土曜補習教室を活用し、継続して計算技能の向上や知識の定着を図る。 ・分数の四則計算に課題が見られる。中でも通分や約分を素早く行うことができるように、倍数と約数の復習を行うことで定着を図る。 	<p>童一人ひとりが問題解決に取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立式をすることができても、それに合った図を考えることが課題である。そのため、筋道立てて考えることを指導する。 ・自分の考えをもとに、互いの考えを出し合って学び合う機会を設定する。 ・数学的な論理的説明ができるようにするために、「AならばBである」と説明させる活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常場面に関連付けたり、具体物を使ったりして学ぶ意欲を高める。 ・ICTを活用し、視覚に訴えるような活動を取り入れる。 ・机間指導を充実させ、一人ひとりの意欲を引き出していく。
--	--	---